

被爆70年 今できること

< 発言者略歴 >

高橋源一郎（たかはし・げんいちろう）

作家



1951年、広島県生まれ。81年、『さようなら、ギャングたち』で第4回群像新人長編小説賞優秀作を受賞しデビュー。88年、『優雅で感傷的な日本野球』で第1回三島由紀夫賞、02年、『日本文学盛衰史』で第13回伊藤整文学賞を受賞。著書に『いつかソウル・トレインに乗る日まで』『一億三千万人のための小説教室』『ニッポンの小説一百年の孤独』他多数ある。今年6月末に伯父の亡くなったルソン島を訪問。被爆70周年ということで、8月6日に広島原爆ドーム前でインタビュー、8月9日はTV出演と「広島」という自分の原点に目を向けている。

根本かおる（ねもと・かおる）

国連広報センター所長



東京大学法学部卒。テレビ朝日を経て、米国コロンビア大学大学院より国際関係論修士号を取得。1996年から2011年末までUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）にて、アジア、アフリカなどで難民支援活動に従事。ジュネーブ本部では政策立案、民間部門からの活動資金調達のコーディネートを担当。WFP（国連世界食糧計画）広報官、国連UNHCR協会事務局長も歴任。フリー・ジャーナリストを経て2013年8月より現職。著書に『日本と出会った難民たち - 生き抜くチカラ、支えるチカラ』（英治出版）他。

小桜智穂（こざくら・ちほ）

広島大学附属高等学校3年



第十六代高校生平和大使として、国際連合欧州本部の訪問や第二回核兵器の非人道性に関する国際会議への出席。また、モンレー国際大学主催のCritical Issues FormやNPDI外相会合意見交換会や並行して開催されたNPDIユースプログラムに参加。その中で、核兵器廃絶に向け、若者としてできることは何かを訴えてきた。

相川一俊（あいかわ・かずとし）

外務省 総合外交政策局 軍縮不拡散・科学部長



1983年外務省入省。総合外交政策局国連政策課長、アジア大洋州局地域政策課長、国連日本政府代表部公使等を経て、2013～2014年大臣官房参事官兼中南米局・経済局、2014～2015年内閣官房・内閣審議官（内閣官房副長官補付）領土・主権対策企画調整室長兼内閣広報室長を歴任。2015年7月より現職。

スティーブン・リーパー

広島女学院客員教授/前 広島平和文化センター理事長



米国生まれ。幼少期日本に住む。2007年米国人として初めて広島平和文化センター理事長に就任（2013年まで）全米における原爆展の開催や核兵器廃絶をめざす2020ビジョンキャンペーンなど広島から世界に向けて核兵器廃絶訴える。現在更に「平和文化」の浸透に努める。広島女学院大学、長崎大学、京都造形芸術大学の客員教授。2009年全国日本学士会アカデミア賞受賞。著書『ヒロシマ維新』『日本が世界を救う』『ヒロシマ発恒久平和論』他翻訳多数。

菅井智（すがい・さとし）

日本赤十字社 国際部次長



1996年4月から、ルワンダ、アフガニスタン、パプアニューギニア、カンボジア、インド・グジャラート、コソボ、インドネシア、北朝鮮などにおける地震・津波、洪水や紛争犠牲者救援やチェルノブイリ原発事故被災者救援等に従事。

2011年3月の東日本大震災発災時には、国際赤十字に対する情報発信、海外の赤十字社からの支援受け入れ、日本政府外務省との連絡調整等に従事。

2012年4月から東京電力福島第一原子力発電所事故に基づく原子力災害防災のガイドライン策定に従事。

2012年以降、「核兵器の人的影響にかかる国際会議」において赤十字運動代表の一員として参加。

藤森俊希（ふじもり・としき）

長野県原爆被害者の会会長、日本被団協事務局次長



1944年3月29日広島市生まれ。9人兄弟姉妹の末子。1945年8月6日、病院に行く途中神田川の土手の上で母とともに被爆。爆心地から2・3キロ。高卒まで広島で育ち、東京の大学に入学。在学中就職し、2006年、62歳で定年退職。長野県に移住、09年11月、長野県原爆被害者の会会長急逝にともない、10年6月同会会長、12年6月、日本被団協事務局次長、以後現在に至る。